

本学は、建学の精神「言語を通して世界の平和を」に基づく教育目標を実現するために、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つの方針を定めて教育活動を行い、継続的な教育の質保証と改善に努めます。そのため、これらの方針の達成状況、学生の学修成果並びに本学の教育効果について、多様な尺度・指標や測定方法に基づいて点検・評価を行います。

1. 学修成果・教育効果を可視化する対象

- (1)測定する対象は、
 - (a)学生本人の学修成果
 - (b)大学の教育効果
- (2)可視化した学修成果並びに教育効果を公開する対象は、
 - (a)学生本人（および保証人）
 - (b)大学（および外部）

2. 学修成果・教育効果を可視化するタイミング

- (1)入学前・入学直後：アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証
- (2)在学中（単位認定・進級判定・退学勧告）：カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証
- (3)卒業時（卒業後）：ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証

3. アセスメント方法と検証体制

大学としての評価方針を構築し、学位プログラム別に「全体集計」「個別集計」においてアセスメント指標を定める。アセスメントの結果は、IR データとして学内で共有し、学修成果並びに教育効果を点検・評価する。

[検証体制]

(1)大学全体レベル

内部質保証の責任機関である点検・評価委員会が、全学的な質保証という見地からアセスメントの結果を検証する。検証結果は、本学の現状把握、全学的な入試や教育の改革・改善、学生の学修・研究活動の支援等に活用する。

(2)教育課程レベル

3つのポリシーをはじめとして、教育課程や学生指導・支援等の方向性を具体的に検討する機関である教学マネジメント委員会が、教育課程の有効性という見地からアセスメントの結果を検証する。検証結果は、教育課程の改善・改革等に活用する。また、全学生を対象として、学修ポートフォリオ（UNIPA）を使って学修成果の振り返りを実施する。さらに、学修の動機付けを促すため、各学年に配置する専任教員による修学アドバイザーは、学修ポートフォリオを用いて学生と面談するなど、教育指導・方法の向上及び学修支援活動に活用する。

(3)科目レベル

個々の授業ごとに担当教員が、シラバスに照らしてアセスメントの結果を検証する。検証結果は、授業内容・計画・方法の改善・改革に活用する。

キャリア英語科のアセスメント指標

	入学前・入学直後	在学中（単位認定・進級判定・退学勧告）	卒業時（卒業後）
全体集計	各種入学試験結果（入学定員充足率、受験者倍率） プレイスメントテスト（GTEC） アセスメントテスト（ジェネリックスキル） 新入生アンケート	GPA 単位修得状況 留年率、除籍・退学率、休学率 出席状況（科目群集計） 授業外学習時間 外部語学検定試験 アセスメントテスト（ジェネリックスキル） 在学生アンケート 授業評価アンケート（科目群集計） 海外留学者数（率）	課題実践（最終課題含む） 成績 専門コア科目 成績 学位授与率（標準修業年限内） 就職率、進学者数 外部語学検定試験 アセスメントテスト（ジェネリックスキル） 卒業時（卒業後）アンケート
個別集計		各科目の成績評価 学生授業評価アンケート（担当科目） 出席状況（担当科目）	

(注)アセスメント指標の基準日、集計対象、集計方法等は別に作成。

(注)アセスメント結果の検証サイクルは、別に作成。

キャリア英語科のディプロマ・ポリシーに定めている卒業時に身につけるべき能力とアセスメント指標の対応関係

アセスメント指標	卒業時に身につけるべき能力					
				社会的・職業的自立を 図るために必要な能力		
				DP1	DP2	DP3
	語学力の育成	英語圏に関する 専門知識と多文化共生力	世界が抱える諸問題の理解	(問題発見力・解決力) (思考力・判断力) (創造力・企画力)	実践するために必要な力 (主体的に取り組む力) (情報収集力・分析力) (計画力・実行力)	協働するために必要な力 (プレゼンテーション力) (コミュニケーション力) (多文化共生力)
学位授与率（標準修業年限内）	○	○	○	○	○	○
就職率、進学者数	○	○	○	○	○	○
課題実践（最終課題含む） 成績		◎	◎	○	○	○
専門コア科目 成績	◎					
外部語学検定試験	◎					
アセスメントテスト(ジェネリックスキル) PROG/ GPS-Academic				◎	◎	◎
卒業時（卒業後）アンケート	◎	◎	◎	◎	◎	◎

(注) ◎は主、○は副として測定

